

「結果生かせるのか？ 滅ぼすのか？」

～ 神の予知、生ける希望 ～

第一ペテロ 1:1～9

私たちが生まれた時から耳元でささやき、私たちに攻撃してくる存在。彼はあなたが目で見た情報を、すべて偽りに変えてあなたの大切なものをすべて奪っていきます。忍耐できないように。正しいことがわからないように。正しいことを伝えようとしても相手に間違った言葉を憶えさせてミスコミュニケーションをさせる。彼は嘘つきで暴虐に満ちていて、あなたの大切なものを奪っていきます。あなたの人生の中で気づかないうちに大事なものを奪われているかもしれません。そんなことを心にとめながら、今やっていることが本当にそれでよいのかを学んでいきたいのです。

ペテロの手紙第一は、当時ローマ皇帝ネロによってクリスチャンが大迫害に遭っていた時代に書かれました。体を人柱にして薪として焼かれたり、人々の前で獅子に襲わせて食わせたり。そんな中でペテロたちは強い信仰を保ち福音を述べ伝えていました。1節に出てくるポイント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ビテニヤ、とは、アッシリアによって捕囚され、その後離散させられた北イスラエルの人々が住んでいたところ。迫害にあっている今の現状が、自分たちの罪によって起こっているのではないかという自責の念にかられていた彼らに、ペテロは手紙を送りました。

■ 父なる神の予知にしたがって

ペテロはわざわざ“父なる神の予知にしたがう”という予知という言葉を使って書いています。この『予知』という言葉はヘブル語でダウトといいます。新約聖書はギリシャ語で書かれています。それなのにここだけヘブル語を使っている理由は、ユダヤ人にむけた言葉だったからです。当時捕囚され、連れ戻され、その地で生まれそして、ローマで宣教され神様に戻った人たちが、また、迫害されて痛みの中で、信仰を弱くしているときに、ペテロはこれは神の予知なんだということを伝えました。ペテロはユダヤ文化の思想を取り入れてわざわざ予知という言葉を入れたのです。このダウトが聖書で一番最初に出てくるのは創世記 2:9 です。この善悪の知識の木の「知識」がダウトという言葉です。善悪を判断させ、物事の分別を人々に示す、この木が神の予知だということです。人々は心の中で自分を責めて、善悪の判断がわからなくなり失われていました。しかし離散し、そこで子孫を継承して、信仰をもっている彼らに対して、もう一度御霊の清めによってイエス・キリストに従うように。また、その血の注ぎを受け、どうか恵みと平安があなた方の上に豊かに示されますようにとあいさつしました。

■ ペテロの証

誰が偉いのかを言いあつたり、鶏の前でイエス様のことを知らないといふ叫んだり、感情の起伏で生きていたような人。学問がなく、ガリラヤの田舎者の漁師。その彼が配慮と知識にあふれた非常に知恵深い手紙を書きました。

どうしてこんなに優れた手紙を残すことができたのでしょうか。それは、獄中で痛みと迫害に耐えつつ神様の前に祈り、造り変えられる中で、この予知、神の善悪を分別させる神の計画を学んだからです。ペテロは神によって造り変えられ、その計画は当時失敗をしてしまった人々にまで恵みを及ぼしたのです。バビロンや、アッシリアに捕囚され離散した民はあまりにも愚かで同じ過ちを繰り返してきました。彼らが、神様の計画の中で、もう一度回復させられるということを見るとき、皆さんの人生の過去にどんな失敗があろうと、神様には関係ないと言えるのです。しかし、関係ないのですが私たちは悔いて改める必要があります。その過去があるから今があるのではありません。しかし、その過去があるからこそ私たちは正しい判断ができるのです。この予知というのは、アダムとイブが罪を犯し、食べてはけないというものを食べ続け、愛するものを否定し、裏切って、出て行かされてしまった人生でもイエス・キリストを通して、間違った道から戻されていく神の予知を学びながら、神様は失敗した人々に本当の善悪を与えるのです。父な

る神の予知があなたの人生に働いているなら、あなたも父なる神の目線を学ばなければならないのです。

■ 神がほめたたえられるために

1ペテロ 1:3 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちに新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。皆さんが人生の中で自信を無くし、もう駄目なんじゃないかと痛みの中を通る時、神様はほめたたえられるということをごの中に描写しています。この「ほめたたえる」=バーラフとは創世記の最初に出てきます。(創世記 1:20～23) 水の生き物、鳥、地の上、天の生き物、神様はこの時様々な生き物の種類を明確にされ区別されました。そして、神はそれらを祝福しました。その祝福がバーラフです。そして、創世記 2:3 では、7日目をわけて日曜日を祝福したのです。創世記で最初に神がほめたたえられることと、同じ意味でつかわれています。神様がそれぞれを区別されたことは、神様がほめたたえられるということなのです。あなたがあなたになって区別されるからほめたたえられるのです。今、皆さんは本当の自分になるチャレンジを受けています。神様がほめたたえられるために、あなたがあなたの種類にならないといけないのです。

■ 神様があなたに与えた資産 エゼキエル48章

葛藤の中でも、神様の予知の中で、信じてあなたが行動することで神様がほめたたえられるように計画した神様は、あなたに必ず与える財産があるのです。1ペテロ 1:4～9 資産=ナハラ(相続地、所有地)なぜ財産が欲しいのでしょうか。それは先の不安があるからです。イエス様の周りには救いを求めて大勢の人がやってきました。そんな人々をイエス様は同情ではなくあわれみしました。その場しのぎではなく解決を与えようとします。その解決とは魂に救いを与える平安の道です。人々が間違ったものに資産価値を見出し、不安をとろうとするのは私たちの分がわかっていないのです。神様はあなたの役割を見出すときにほめたたえられ、平安のなかで、役割を生きるときに神の栄光が人々に現わされるといっています。だから、どんな苦難の中でも負けずに神の前に生きることができるといっています。今こういう情勢の中、不安があるなら、あなたがたは心を騒がせてはなりません。神様の約束が用意されていて、今は試練があるけれど、それはあなたを朽ちていく金よりも貴い本当のあなたに導きます。だから、イエス・キリストが再び現れた時、賞賛と栄光を受けます。今の訓練を乗り越えていきなさいと言われても、たとえ逃げて失敗しても失っていても神様はそんな離散の人々を忘れていない。私はあなたを連れ戻す。と言っています。

まとめ

あなたの領域を逃げずに忠実に生きるためにイエスキリストは十字架にかかりました。それぞれの領域で生きるとき不安になるでしょう。でも、神様がそれぞれの領域を定めています。そこに生きれば必ず実を残します。あなたではないあなたで生きないでください。今置かれている場所でストレスを感じるならばそれがあなたの領域です。神様はあなたをそこに置きました。あの嘘つき通訳者はあなたの得意なことを不得意にさせ、好きなことを嫌いにさせ、しなくてよいことをさせようとしてます。あなたの長所をきちんと用いれば短所はなくなります。神様があなたを作られたとき、よしとされたからです。神様が置かれた場所で信じて忍耐し咲いてください。ペテロの手紙から、ローマの暗黒時代を生き抜いた人々から、私たちは暗黒時代を生き抜く方法を学んでいきましょう。

(要約者:澤口 明子)

(2021年3月7日)